地域懇談会での主な意見等

実施箇所　市内７地区
実施期間　平成２０年９月３０日～１０月１０日
開催時間　１４：００～１時間半程度

■北東部地区（９月３０日（火）：函館市総合保健センター）

- 町会と民生委員と在宅福祉委員の役割を同じ人が担っているので，どの活動でも似たり寄ったりになる。もう少し地域を分けて，全員参加で研修会を開いて欲しい。こういったものは全員参加でなくては意味がない。
- 町内会の名称を自治会に変えると，住民意識の向上が図られるのではないか。高齢者が多くなるので，高齢者同士でも，元気なものが体の不自由な方，お金のない方を助けるというように，なるべく行政に負担を与えないように住民の意識を高めることが一番大切なことだと感じる。
- 町会の活動をしてほしくて若い人に声をかけても，一度入ると抜けることができなくなり，今後ずっと続けていかなければならなくなるのが心配だと言う。
- 福祉はまず人間関係を作っていかなければならない。人間関係がわずらわしいと言って，行事に参加しない人がいる。
- 定年を迎え地域でゆっくり生活している方が，自分の生きがいとしてできるボランティアを行うことにより地域に協力できるような仕組みがあれば良いと思う。また，過去にしていた仕事や趣味を活かすなど，自分の持っている一部分でも地域に還元するような考え方で取り組んで欲しいと常々思っている。
- どのようなことでも地域の人同士が議論することが一番大事であると思う。
- 玄関先で顔が見える関係になっていけばいいなと思い，私は自分の周りには声をかけている。
- 子どもも大人も，大事なのは家庭・学校・地域社会である。
- 地域で交流する中で，それぞれの活動する範囲が見えてくると思う。そういう機会として，高齢者，障がい者，子育てなど３者が集まる地域懇談会のような会議でどの団体がどのようなことをしているのか知るのは良いことだと思う。
- 地域を明るくするとか，地域で仲良くするとかということを考えていけば，福祉はその中に含まれるのではないかと思う。
- 各在宅福祉委員会はたくさんあるが，みんな孤立している。何をやったらいいか悩みながらもみんな何も言わない。そういうことを各在宅福祉委員がグループごとでもいいし，集まってみんなで活動や悩み事について話し合えるような機会をもてればと，それも福祉部の大事な仕事でないかと思っている。
- ボランティアに楽しいという言葉を込めたい。

■西部地区（１０月１日（水）：本庁舎８階第１会議室）

- ＰＴＡ，町会で共通して思うことは，子どもたちの親世代の参加が少ない。町会で行事があっても子どもたちだけ参加させているのが多い。この辺の意識をどうすれば良いかが悩みである。誰かがやっているから任せておけば良いだろうというのが多い。
- 民生委員をしているが，辞めたくても後継者がいないので，できるだけ長くやろうと思っている。
- 民生委員として，自分だけで解決することは無理だ。特に包括支援センターができてからは何かあれば相談している。
- 包括支援センターと民生委員，町会などの横の連絡体制ができれば楽になる。
- そこの地域に生まれた子どもについて，お母さん方が支援や相談をしたり，困ったときに手を貸してもらうといったことができたら良い。包括支援センターのような，地域の子育て拠点があったら良い。
- 地域のなかに，保護司や民生児童委員，町内会の育成部長など，自分達を見守っている大人がいることを子どもに教えなければならない。地域のおじさん，おばさんになってほしい，自分の子どもだけの親でなくて，地域の一員となって地域の子どもを守ってほしい。
- まず自分ができることは，身近な人達とコミュニケーションをとることである。
- 年をとると今の生活を変えたがらず，引きこもる人が，多くなる。
- 高齢者の孤独死が増えているが，普段から連絡先を聞いておいて，早く発見することが大事である。

■北部地区（１０月２日（木）：桔梗町会館）

- 町会行事に学校を通じて参加したことで，少し地域と近くなった印象がある。来年も引き続き協力していきたいし，地域の方に子どもたちを防犯で守ってもらいたい。少しずつでも交流が深まっていければ良い。
- 在宅福祉の利用者として登録していない人でも孤独な人が結構いる。そのような方々をどのようにして支え合っていくか。あまり入り込むと嫌がる。今対象になっている人が氷山の一角で，このままでは，福祉事業をやっているとは言えない気がする。工夫をして対象の枠を広げなければならない。
- 福祉の理屈はわかるが，きめ細かに横の連携を広げていくのは難しい気がする。
- 少子高齢社会において，高齢者が高齢者を看るようになってきている。また町会に入る若い世代が少ないのは魅力がないためかもしれない。町会に入っても，どれだけプラスになるのか考えると思う。いろいろな形で工夫をしているが，なかなか若い人が入ってこないのが現状である。市職員も町会活動に積極的に参加してほしい。
- 町会の普段の活動は高齢者向けの行事なので，年齢層で分断されている感じがする。夏祭りなど，誰でも参加できる行事を，小さくても良いので続けてやっていくことで広がりができてくると思う。子どもたちを育てるのは地域であると思っているので，地域の人には挨拶したり，仲良くしたりするようにしている。自分が楽しみながら近所の人達と交流するのが大切である。上から決められたことをやるだけではなく，基本は人のつながりと思うので，普段の生活から自分の子どもや周りの人達と一緒にやっていきたい。
- 桔梗町は若い人の転入が多いが，町会役員の後継者の確保が難しく，役員の高齢化が進んでいる。

■東央部地区（１０月６日（月）：国立函館視力障害センター）

- 在宅福祉の対象者と児童館で餅つきなどの交流を行っている。
- デイサービスセンターや高齢者下宿で保育園児が歌の発表をして大変に喜ばれている。
- お年寄りと保育園の交流は，個別にやるだけではなく，組織的に広がっていけば良いと思う。
- 安全マップの見直しを学校，町会，民生委員，主任児童委員などが一堂に会しながらワークショップにより，ひとつのマップを作ろうという形に持って行ければ不審者が多い地区，独居の方が多い地区というのがより身近に再確認できるのではないか。そのような作業をすることでお互いを知り，ネットワーク作りにつながると思う。
- 通学の見守り活動で，黄色いジャンパーを着て歩いていると子ども達に挨拶されたり，顔を覚えて話しかけてもらえるようになった。長く積み重ねていかなければ実にならない活動だと思う。受け入れてもらうというか，なじむことが大事かと思う。
- 通学路で子ども達から積極的に挨拶することで，不審者を寄せ付けない取り組みをしている。
- 在宅福祉の食事会で，出席しない人をどのようにして外に出せるか悩んでいる。
- 民生委員には，堅苦しいイメージや生活保護との関連があり，訪問されると困るという意識もあるようなので，積極的に訪問するより，周りから入ってくる情報を受け止めるようにしている。
- 在宅福祉委員などで，若い人が来ても引退する人はなかなかいない。現在の委員の仲良しクラブのようになって，若い人が入りづらいという面も多分にあるのではないか。

■中央部地区（１０月７日（火）：函館市総合福祉センター）

- 子ども達に障がい者などに対する思いやりを持つ教育がなされていないのではないか。これからの若い担い手の方々にも，もっと福祉に対する興味を持っていただく行事を行うことが大事だ。
- 民生委員でも在宅福祉委員でも要は自分で対応できなければ，誰かに相談することが大事である。悩んでいても解決しない。自分で判断できないものは誰かにすぐ相談する。相談先を確保していることが重要である。
- 地域懇談会の持ち方として，分科会形式にしてその後全体会で提示するというようなことをしないと時間がもったいない。
- それぞれの活動でトラブルは山ほどあるので，テーマを決めて，事例を出し，整理するという流れでやらなければ，福祉の問題は大変だと思う。
- 高齢者に限らず，衰弱して放置できないような人でも，施錠して引きこもるケースがあり，対応に苦慮している。

■戸井・恵山地区（１０月９日（木）：日ノ浜会館）

- 生活保護受給世帯について，合併後は，保護費支給日が決まっているため連絡の必要がなく，疎遠になっている。住民からは民生委員が全然訪問しないという批判めいた話も耳に入ってくる。民生委員はどこまで関わればいいのか。
- 民生委員は行政への連絡だけにして，それ以上はあまり立ち入らないようにという指導を受けているので，そのようにしようとしているが，旧市内の民生委員とは違い，狭い地域なので民生委員が世話をして生活保護を受けさせたり，何でも民生委員がやってやったのではないかと良くも悪くも言われることがある。
- 民生委員と保健師が協力して，保護受給者だけでなく，地域全体の弱者への目配りをお願いしている。勉強会を通してお互いに身近な存在になれる。保健師は少ないので小回りのきいた動きが難しいが，民生委員は何かあればすぐにお願いできるので，心強くありがたい存在である。
- ボランティアが高齢化してきているので若いボランティアがほしい。老老ボランティアになっている。

■椴法華・南茅部地区（１０月１０日（金）：南茅部公民館）

- 行事だけに使うのであれば，市は名簿を出してくれても良いのではないか。
- 年金から保険料を天引きするような内容であれば，合併前であれば地区ごとの説明会をもっとやっていた。集まる人数は少ないが，やることが重要である。今の方法では福祉の心がない。
- 訪問しても鍵がかかっている，出てこない，電話帳に番号が載っていない，地域の行事に参加しない，町内会費を払わないような人についても，福祉事業を進めるうえではどうにかしなければと思っているのだろうが，どうすれば良いのか。
- 町会の活動などに出てくる人に対しては，自然な形で会話しているので，計画にはそのとおりと思われることが書いてあるが，地域で支え合う社会づくりなどと言わなくても自然と支え合っている。都市部に比べたらコミュニケーションは良くとれている。
- 地域がどのように支えるかがテーマなので，そのことを議論する必要はないが，高齢者にもそれぞれの生き方というのがある。
- 高齢化率が２５，３０％になってきて，今後５年間の経過を考えた場合，支える人がいなくなり社会が崩壊する。